令和9年度

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）

学 生 募 集 要 項

一　般　入　試

社　会　人　入　試

現　職　教　員　入　試

外国人留学生入試

国立大学法人

鹿屋体育大学

National Institute of
Fitness and Sports in KANOYA

目　　次

1　本学大学院体育学研究科（修士課程）のアドミッション・ポリシー ……1
2　専攻，試験区分及び募集人員……2
3　出願資格 ……2
4　選抜日程 ……5
5　選抜方法 ……5
6　出願方法 ……6
7　出願書類等の提出先及び照会先……12
8　受験票のダウンロード及び印刷……13
9　受験者心得の案内 ……13
10　試験場 ……13
11　合格者の発表……13
12　入学手続・入学料等……13
13　第2次募集 ……14
14　指導教員及び副指導教員 ……14
15　障害のある者等の事前相談……14
16　個人の入試情報の開示請求方法……14
17　その他 ……15
18　福利厚生等……15
◆本学までの主な交通経路……18
◆鹿屋体育大学位置図 ……19

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入学案内

1　体育学研究科体育学専攻（修士課程）の概要……21
2　熊本大学・宮崎大学との連携大学院について……21
3　体育学研究科体育学専攻（修士課程）担当教員一覧 ……22
4　開設授業科目及び授業担当教員一覧（修士課程） ……27
5　大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」 ……28
6　長期履修学生制度 ……28

【選抜日程等】

インターネット出願サイト登録期間	令和8年9月9日（水）～9月24日（木）15時
出願書類提出期間	令和8年9月16日（水）～9月24日（木）
選抜日程	令和8年10月21日（水）
合格者発表日	令和8年11月2日（月）
入学手続期間	令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

- インターネット出願サイトによるマイページ登録については，インターネット出願サイト登録期間前に実施することが可能です。

入学料特別免除制度

- 本学では，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

令和9年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科

体育学専攻(修士課程)学生募集要項

1　本学大学院体育学研究科(修士課程)のアドミッション・ポリシー

21世紀の体育学は，人文・社会科学分野と自然科学分野の諸科学が体系的に融合し，学際的な複合新領域として発展する方向にあります。体育学研究科体育学専攻(修士課程)では，スポーツや身体運動を通して，国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献する専門的・実践的な能力の養成及び職業人として中核的な役割を担う人材の育成を目指しています。

◎求める学生像

本課程では，次のような人材を求めています。

- 豊富なスポーツ実践活動の経験を有し，科学的な研究成果を実践へと応用することによって，我が国における競技スポーツや武道実践の分野，体育及びスポーツ教育の分野で中核的な存在として活躍する意志と能力を持つ人
- 生涯スポーツが国民の健康や幸福に与える価値を認め，我が国のスポーツや身体運動に関する文化，地域政策，医療福祉，健康産業，ビジネスなどの分野で中核的な存在として活躍する意志と能力を持つ人
- 国際的な視野と感覚を有し，スポーツや身体運動に関する高い水準の独創的な研究を推進するために，博士後期課程に進学する意志と能力を持つ人
- 体育及びスポーツの分野ですでに活躍している現職者で，本教育課程を通して，さらに高度な専門的能力を身につける意志と能力を持つ人
- 高い競技力を有し，国際的な大会で活躍することができるとともに，我が国の代表として誇れる人格と教養を持ち得るトップアスリート

◎入学者選抜の基本方針

- 一般入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験(論述試験)及び口述試験，英語能力を評価するための外国語(英語)試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 社会人入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験(論述試験)及び口述試験，英語能力を評価するための外国語(英語)試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 外国人留学生入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験(論述試験)及び口述試験，英語能力を評価するための外国語(英語)試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 現職教員入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための口述試験，その他提出書類により総合的に評価します。

ただし，一般入試，社会人入試，外国人留学生入試のうちスーパー・スチューデント(SS)及びスーパー・コーチャー(SC)に認定された者は，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための口述試験，その他提出書類により総合的に評価します。

2 専攻,試験区分及び募集人員

専攻	試験区分	募集人員
体育学	一般入試	15人
	社会人入試	
	現職教員入試	
	外国人留学生入試	

募集人員 15 人には次の⑴～⑵の者を含む。

⑴ SS・SC(若干人)

- SS(スーパー・スチューデントの略)とは,競技歴の特に高い者で,一般入試,社会人入試及び外国人留学生入試受験者のうち,事前に本学において認定された者とします。
- SC(スーパー・コーチャーの略)とは,指導又はサポート歴の特に高い者で,一般入試,社会人入試及び外国人留学生入試受験者のうち,事前に本学において認定された者とします。

※ SS及びSCの認定と受入体制に関しては,出願に先立ち,令和8年8月18日(火)までに必要書類を提出する必要がありますので,本学教務課入試係へ問い合わせのうえ, 3頁の「SS認定審査について」または4頁の「SC認定審査について」に記載の書類を送付(書留速達郵便)してください。

⑵ 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムにおいて履修及び研究指導を受ける者(若干人)

- 21頁を参照してください。

(注) 本学修士課程においては,転入学及び再入学の制度がありますので,希望者は,本学教務課入試係へ問い合わせください。

3 出願資格

大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)入試に出願できる者は,次の⑴～⑽のいずれか,かつ⑾を満たす者です。

⑴ 学校教育法第83条第1項に定める大学を卒業した者及び令和9年3月までに卒業見込みの者

⑵ 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者

⑶ 外国において,学校教育における16年の課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者(注1)

⑷ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育において16年の課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者(注1)

⑸ 我が国において,外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって,文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者

⑹ 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について,当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において,修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により,学士の学位を授与された者

⑺ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者

⑻ 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号)(注2)

⑼ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって,本学大学院における教育を受ける

にふさわしい学力があると認めたもの

⑽ 本学大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和9年3月までに 22 歳に達するもの（注3）

⑾ 大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入学試験実施日から過去2年以内にTOEFL又はTOEIC Listening & Reading Test（TOEIC－IPを含む。）を受験し，一定のスコア（TOEFL－iBTは120点満点のうち24点以上，TOEIC（TOEIC－IPを含む。）は990点満点のうち300点以上）を取得している者（ただし，現職教員入試で出願する者及びSS又はSCと認定された者は除く。）

（注1）大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において，大学教育を修了した者又は通信教育の授業科目を我が国において履修し，大学教育を修了した者で，大学教育修了後，日本国内又は国外の大学もしくは国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において，研究生，研究員等として相当期間（おおむね1年以上とします。）研究に従事しており，かつ，令和9年3月までに22歳に達するもので，我が国の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者は出願することができます。

（注2）文部科学大臣の指定した者に該当する者は，「教育職員免許法による小学校，中学校，高等学校，幼稚園の教諭もしくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で令和9年3月までに22歳に達するもの」などです。

（注3）個別の入学資格審査の対象となる者は，「短期大学，高等専門学校，専修学校，各種学校の卒業者や外国大学日本分校等の修了者など大学卒業資格を有していない者で令和9年3月までに22歳に達するもの」です。これにより出願する場合は，事前に審査を行う必要がありますので，本学教務課入試係へ問い合わせの上，指定する期日までに下記「個別の入学資格審査について」に記載の書類を送付（書留速達郵便）してください。 **なお，事前審査の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員（研究指導教員となり得る教員）と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談してください。**

① 個別の入学資格審査について

提出期限	令和8年8月18日（火）
提出書類	・入学資格審査希望調書【本学様式】 ・志望理由書（大学院で学ぶ動機，理由）【本学様式】 ・最終学校の卒業証明書及び成績証明書 ・資格，免許等を証明するもの（写） ・研究論文等（写）
審査方法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和8年9月4日（金）に審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒 891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL 0994-46-4869　FAX 0994-46-2533 封筒の表に「修士課程個別の審査書類在中」と朱書してください。

② SS認定審査について

提出期限	令和8年8月18日（火）
提出書類	・SS認定調書【本学様式】 ・体育・スポーツ歴調書【本学様式】 ・競技活動計画書・指導活動計画書【本学様式】 ・国際大会出場を証明できる書類（写）

審査方法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和8年9月4日(金)に審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒 891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL 0994-46-4869　FAX 0994-46-2533 封筒の表に「修士課程SS認定審査書類在中」と朱書してください。

③ SC認定審査について

提出期限	令和8年8月18日(火)
提出書類	・SC認定調書【本学様式】 ・体育・スポーツ歴調書【本学様式】 ・研究計画書【本学様式】 ・指導活動計画書【本学様式】 ・各国代表選手を指導又はサポートしたことを証明できる書類(写) ・代表スタッフとして指導又はサポートした選手の成績を証明できる書類(写)
審査方法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和8年9月4日(金)に審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL 0994-46-4869　FAX 0994-46-2533 封筒の表に「修士課程SC認定審査書類在中」と朱書してください。

出願資格に関する注意事項

⑴ 社会人入試に出願できる者は,「大学を卒業した者(本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者を含む。)で, 出願時までに常勤・非常勤を問わず2年以上の社会人としての有職経験(主たる身分が学生の場合のアルバイト等は除く。)を有し, 体育学の分野に関心があり, 明確な研究テーマを持ち, かつ十分な研究意欲のある者」とします。

⑵ 現職教員入試に出願できる者は,「小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校及び教育関係機関に勤務(専任)し, 所属する都道府県教育委員会又は政令指定都市教育委員会から承諾を受け, 在職のまま入学しようとする者」とします。
なお, 入学後は,「1年次においては, 大学院での学業に専念し, 必要な単位を修得する。また, 2年次においては, 定期的に通学して, 残りの単位を修得するとともに修士論文作成のための指導を受けるもの」とします。

⑶ 外国人留学生入試に出願できる者は,「外国籍を有している者」とします。

⑷ SSに出願できる者は,「日本代表(外国人留学生入試受験者は, 出身国代表)として国際大会で活躍している者で, かつ, ①入学後も競技力向上を継続する意志のある者, 又は②高度な指導知識や実践的能力を備えた指導者として, 国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者」とします。

⑸ SCに出願できる者は,「各国代表の選手を指導又はサポートした実績(当該国においてナショナルチームに帯同したスタッフ(監督, ヘッドコーチ, アシスタントコーチ, アナリスト及びトレーナーなど))を有し, 高度な指導知識や実践的能力を備えたスタッフとして, 国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者で,指導又はサポートについての明確な研究テーマを持つ者」とします。
※ここでいうナショナルチームとは, フル代表やA代表のことを指し, ジュニアやU－18等年齢別のカテゴリーは除きます。

なお, 出願資格について不明な点は, 令和8年8月17日(月)までに教務課入試係(0994-46-4869)へ問い合わせてください。

4 選抜日程

試験日時 / 試験区分	令和8年10月21日(水)	
	9:30 ～ 11:00	12:15～
一般入試	論述試験	口述試験
社会人入試		
現職教員入試		口述試験
外国人留学生入試	論述試験	口述試験
上記の内，SS又はSCと認定された者		口述試験

5 選抜方法

大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)の入学者選抜は，学力試験〔外国語(英語)，筆記試験(論述試験)，口述試験〕及びその他の提出書類等の結果を総合して選抜します。

合否判定の基本方針

【一般入試，社会人入試，外国人留学生入試】

1 外国語(英語)及び論述試験の合計得点の高い者から合格とします。
なお，同得点の者が複数の場合には，口述試験の結果の順に判断します。

2 次の事項に該当する者については，不合格とします。

ア 外国語(英語)及び論述試験の合計得点が200点満点のうち100点未満の者

イ 論述試験の得点が100点満点のうち30点未満の者

ウ 口述試験の結果が5段階のうち「1」の者

【現職教員入試】

口述試験の結果，本学修士課程の修学に耐えうると判断された者を合格とします。

【一般入試，社会人入試，外国人留学生入試のうちSS又はSCと認定された者】

1 口述試験の結果の高い者から合格とします。

2 次の事項に該当する者については，不合格とします。

ア 口述試験の結果が5段階のうち「1」の者

学力試験

① 外国語(英語)(100点満点で評価)
- 外国語(英語)は出願時に提出した「TOEFL又はTOEIC Listening & Reading Testのスコア」によって評価を行います。
- 入学試験実施日から2年以内に受験したTOEFL又はTOEIC(TOEIC-IP含む。)のテストの結果を評価します。ただし，TOEFL-iBTは120点満点のうち24点未満の者，TOEIC(TOEIC-IP含む。)は990点満点のうち300点未満の者は除きます。

② 筆記試験(論述試験)(100点満点で評価)
- 体育学全般にわたる問題を出題します。
- 一般入試では，共通問題は必須となり，選択問題は3問の中から1問を選択し，合計4問の中から2問を解答します。社会人入試及び外国人留学生入試では，共通問題及び選択問題の合計4問の中から1問を解答します。
なお，外国人留学生入試についても日本語による出題，解答となります。

③ 口述試験(現職教員入試以外は5段階で評価，現職教員入試は「可」「否」で評価)
- 専門的知識及び研究計画等について試問します。
- 実施方法は，受験者の研究計画の内容についてのプレゼンテーション後に，質疑応答形式で行います。
- 受験者1人当たりの時間は，おおむね20分とします。(内訳：プレゼンテーション時間5分，質疑応答時間15分)

6 出願方法

体育学専攻(修士課程)の出願は，インターネット出願で行います。

インターネット出願サイト：https://e-apply.jp/ds/nifs-k/

⑴ 出願期間

■インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間

令和8年9月9日(水)～9月24日(木)15時

■出願書類提出期間

令和8年9月16日(水)～9月24日(木)

① 直接持参する場合の受付時間は，8時30分から17時15分までとします。
ただし，土曜日，日曜日及び国民の祝日(振替休日を含む。)は受付を行いません。

② 郵送の場合は9月24日(木)17時15分必着とします。

(注)出願期間後は一切受理しませんので，郵送による場合は郵送期間を十分に考慮して送付してください。

⑵ 入学検定料

30，000円

お支払い方法については，「⑶ 出願の流れについて」をご確認ください。また，入学検定料の支払いを完了しても，まだ出願手続きは完了していません。引き続き，出願に必要な書類の印刷及び提出を出願書類提出期間に行う必要がありますので，ご注意ください。

なお，下記の場合以外は，既納の入学検定料はいかなる理由があっても返還しません。

ア 出願書類等を提出したが，受理されなかった場合
該当者に連絡しますので，所定の期日までに手続を行ってください。

イ 入学検定料を振り込み後，本学に出願しなかった場合

ウ 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は所定の金額より多く払い込んだ場合

上記イ及びウについては，本人の申し出により納入された入学検定料又は超過分を返還することができますので，必ず令和8年10月20日(火)までに教務課入試係(電話0994-46-4869)へ連絡してください。

(3) 出願の流れについて

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは，以下の通りです

STEP 1 事前準備 → STEP 2 出願サイトにアクセス → STEP 3 マイページの登録 → STEP 4 出願内容の登録 → STEP 5 入学検定料の支払い → STEP 6 必要書類の郵送 → STEP 7 出願完了 → 受験票の印刷

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン，プリンターなどを用意してください。
必要書類※は，発行まで時間を要する場合があります。
早めに準備を始め，出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…顔写真データ,TOEIC･TOEFLスコア票,卒業(見込)証明書,成績証明
詳細は学生募集要項を参照



STEP 2 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ **https://e-apply.jp/ds/nifs-k/**

または，

大学ホームページ ▶ **https://www.nifs-k.ac.jp/examinees/**

からアクセス



STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って，必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお，マイページの登録がお済みの方は，STEP4に進んでください。



①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ，出願手続きを行う ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は，これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して，画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



③志望学部等の選択



④顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報（氏名・住所等）の
入力



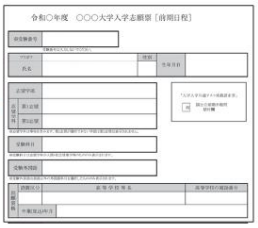
⑥出願内容の確認
入学願書（サンプル） ボタンを
クリックすると入学願書が確認できます。



⑦申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は，支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ，通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号 メモ（13桁）	

デイリーヤマザキ，セイコーマートの場合

オンライン決済 番号メモ（11桁）	

ローソン，ミニストップ，ファミリーマート，ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号 メモ（11桁）	
確認番号 メモ（6桁）	
収納機関番号 （5桁）	5 8 0 2 1

※収納機関番号は，ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は，送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので，注意してください。

申込登録完了後は，登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし，入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで，実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は，出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し，支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA，Master，JCB，AMERICAN EXPRESS，MUFGカード，DCカード，UFJカード，NICOSカード

出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後，ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので，画面の指示に従って操作し，お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて，コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン
デイリーヤマザキ
セイコーマート

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi
LAWSON
MINISTOP
マルチコピー機
FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて，ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し，内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン

店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「払込票番号（13桁）」を伝える
レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー

店頭レジ
レジで「オンライン決済」と伝える
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

ローソン ミニストップ

Loppi
「各種番号をお持ちの方」を選択
「お客様番号（11桁）」入力
「マルチペイメントサービス」を選択
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
発券された申込券（受付票）をレジへ持参し，検定料を現金で支払う※
申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る

ファミリーマート

マルチコピー機
「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
発券された申込券（受付票）をレジへ持参し，検定料を現金で支払う※
申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る

セイコーマート

店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
レジで検定料を現金で支払う※
払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM

ペイジー対応銀行ATM
「税金・料金払い込み」などを選択
収納機関番号「58021」を入力
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
ご利用明細書を必ず受け取る

※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合，現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

必要書類の印刷と郵送

登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

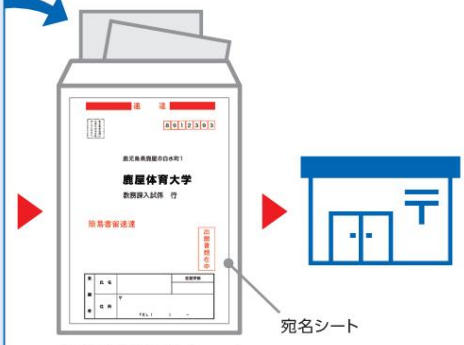
出願登録，入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を印刷し，その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から「簡易書留速達郵便」で郵送または持参してください。※出願締切日の17時15分必着。

必要書類

入学願書

入学願書

＋ **その他の書類**



出願書類提出用宛名シート
市販の角形2号封筒（24cm×33.2cm）に貼り付けて作成

送付先　〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1
鹿屋体育大学　教務課入試係　行

「入学願書」の印刷方法



(1) マイページに表示された 入学願書(印刷) のボタンをクリックしてください。

(2) お支払いが正常に完了すると 入学願書(印刷) のボタンがクリックできるようになり入学願書の出力ができます。

■出願書類
詳細は学生募集要項を確認してください。

※出願受理した入学検定料・必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後，入学検定料を支払い，必要書類を郵送（持参）して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし，出願登録及び入学検定料の支払いは出願締切日15時まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど，施設によって異なります），必要書類の郵送（持参）は出願締切日の17時15分必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP 7

受験票・受験者心得の印刷

本学で出願を確認後，各入試毎に試験日の1週間前を目途に一斉に受験票及び受験者心得を配信します。インターネット出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので，必ず印刷し，内容を確認のうえ，試験当日持参してください（※郵送はいたしません）。

※受験票及び受験者心得のダウンロードが可能になりましたら，出願時に登録したアドレスへメールで通知します。



【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に片面印刷にしてください。

⑷ 郵送・提出が必要な書類等について

入学検定料の支払いを完了しても，まだ出願手続きは完了していません。引き続き，出願に必要な書類の印刷及び郵送・提出を出願書類提出期間に行ってください。

郵送（必着）または持参が必要な出願書類等は以下のとおりです。

① インターネット出願サイト入力後にダウンロードできるもの

各自ダウンロード・印刷してください。

出願書類等	提出該当者	摘　　要
入学願書	全員	出願登録を行った後にダウンロードできる様式を印刷（A4両面長辺綴じ）し，出願書類提出期間内に必ず到着するように提出してください。
宛名シート	〃	出願書類等郵送用として，市販の角形2号封筒を事前にご用意ください。 出願登録を行った後にダウンロードできる宛名シートを印刷（A4片面，カラー）し，準備した封筒の表側に貼り付けて，切手を貼付の上，郵便局の窓口から郵送又は持参してください。

② ホームページに様式を掲載しているもの

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/admission/graduate-school/master/physical-education/）へアクセスし，ダウンロードの上，記入してください。

出願書類等	提出該当者	摘　　要
研究計画書	全員	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。 また，**研究指導を希望する教員とあらかじめ履修・研究内容等について相談し，指導の同意を得た上で，提出してください。**
体育・スポーツ歴調書	〃	本学所定の様式により，大学入学以降の競技歴，指導歴，研究歴等を記入の上，提出してください。 ・SSとして出願する者は，国際大会での競技成績・記録を証明する資料を必ず添付してください。 ・SCとして出願する者は，各国代表選手を指導又はサポートしたことを証明する資料を必ず添付してください。
研究歴証明書	出願資格⑶（注1）該当者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
志望理由書	出願資格⑽（注3）該当者	本学所定の様式に「大学院で学ぶ動機，理由」（800字以上1,200字以内）を記入し，提出してください。
入学資格審査希望調書	〃	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
ＳＳ認定調書	SS認定希望者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
競技活動計画書・指導活動計画書	〃	本学所定の様式に審査を希望する出願資格（4頁「出願資格に関する注意事項⑷」を参照）についての必要事項を記入の上，提出してください。
ＳＣ認定調書	SC認定希望者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
指導活動計画書	〃	本学所定の様式に「入学後及び修了後の指導計画」を記入の上，提出してください。
経費支弁書	外国人留学生のみ	本学所定の様式により，必要事項を記入の上，出願書類提出期間内に必ず到着するように提出してください。

③ 各自で事前に用意するもの
インターネット出願サイト入力前にそれぞれご準備ください。

出願書類等	提出該当者	摘要
顔写真データ	全員	インターネット出願サイトへの登録時に必要となります。上半身，無帽，正面向き，背景無地で提出前3か月以内に撮影した鮮明な写真を準備してください。データファイル形式はjpeg，png，bitmap，gifとし，ファイル容量は10MBまでとします。 なお，以下のような写真は使用できません。 ・髪の毛が目にかかっている　・背景がある ・目をつむっている　・アプリ等で顔を加工している ・マフラーやサングラスを着用している
TOEFLは受験者控えスコア票（写真付き） TOEICは公式認定証 TOEIC－IPはスコアレポート	全員 （ただし，現職教員入試で出願する者及びSS又はSCと認定された者は除く。）	出願書類等については，原本を提出してください。（コピー不可。入学試験実施日から過去2年以内に受験したもの） なお，TOEIC Listening & Reading Testを受験し，デジタル公式認定証を発行された者は，IIBC（TOEIC事務局）から発行された「TOEICデジタル公式認定証」を印刷の上，提出してください。 また，提出された公式認定証等の書類は出願資格確認後，試験日当日に返却します。
卒業（見込）証明書	大学卒業（見込）者	出身大学（又は最終学校）の長又は学部長が作成したものを提出してください。
成績証明書 【要厳封】	〃	出身大学（又は最終学校）の長又は学部長が作成し，厳封したものを提出してください。
受験承諾書	大学院在学者	現に他の大学院に在学している者は，本学大学院の受験についての当該在学大学の学長（研究科長）の受験承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
受験及び入学に関する承諾書	社会人	現に学校，官公庁又は民間企業等に在職している者で本学大学院に入学しようとするものは，本学大学院への受験及び入学に関する所属長の承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
	現職教員入試出願者	所属する都道府県又は政令指定都市の教育委員会の教育長の承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
住民票	日本に在住している外国人	市区町村長の交付する住民票（国籍・在留期間・在留資格を明記したもの。）を提出してください。 また，大学院入学の際には「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」による大学院入学に支障のない在留資格を必要とします。
パスポートの写し	日本に在住していない外国人	パスポートの本人の氏名・国籍・顔写真のわかるページのコピーを提出してください。
教育職員免許状授与証明書	出願資格(8)（注2）該当者	免許状を授与された都道府県教育委員会が作成したものを提出してください。
出席率に関する証明書	外国人留学生のみ	日本国内の日本語教育機関等に在籍にする者または在籍していた者については，当該機関における出席率を証明する書類を提出してください。（様式任意）

（注）日本語以外で書かれている書類については，必ず日本語の訳文を添付してください。

7 出願書類等の提出先及び照会先

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課入試係
T E L 0994－46－4869
F A X 0994－46－2533
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

8 受験票のダウンロード及び印刷

⑴ 大学から受験票の発送は行いません。以下の受験票印刷開始日時以降にインターネット出願サイトにログインの上，各自で印刷してください。なお，受験票の印刷が可能になったら，インターネット出願サイトに登録したメールアドレス宛てに通知が届きます。

受験票の印刷開始日時：令和8年10月13日（火）10:00（時間は前後する場合があります。）

⑵ 受験票に関する注意事項

① 受験票を印刷後，記載内容を必ず確認してください。出願登録した内容と異なっている場合は，「7 出願書類等の提出先及び照会先」へ10月15日（木）17時までにご連絡ください。
また，パソコン等に表示された受験番号と，印刷後の受験番号が一致していることを必ず確認してください。

② 受験票印刷開始日時以降に印刷ができない場合は「7　出願書類等の提出先及び照会先」へ10月15日（木）17時までにご連絡ください。

③ インターネット出願登録した際の受付番号は，受験番号ではありません。

④ 必ず印刷した受験票を持参してください。スマートフォン等での画面表示による受験票の提示は認めません。

⑤ 受験票は，大切に保管しておいてください。

9 受験者心得の案内

受験票の2頁目以降に，受験上の注意事項等を記載した「受験者心得」等についても掲載します。また，試験場案内図等の資料も本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上に掲載しますので，受験票と一緒にダウンロードの上，必ず事前に確認するようにしてください。

10 試験場

鹿屋体育大学 白水キャンパス
所在地:鹿児島県鹿屋市白水町1番地　TEL：0994－46－4869
※試験場については，18,19頁の位置図等を参照してください。

11 合格者の発表

令和8年11月2日（月）10時

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上で，「合格者受験番号一覧表」を発表するとともに，合否照会専用サイトからも確認できます。

なお，合格通知書については発行しません。

また，電話等による合否の問い合わせには，一切応じません。

合否照会専用サイト：https://www.gouhi.com/nifs-k/

12 入学手続・入学料等

入学手続きはweb入学手続きにて行います。web入学手続きサイトで入学手続期間内に完了してください。入学手続に係る案内は令和9年1月中旬までに通知します。

なお，入学手続期間内に入学手続を完了しないときは，本学の大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入試合格者としての権利が消滅するので注意してください。

⑴ 入学手続期間　令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

① 直接持参する場合の受付時間は,8時30分から17時15分までとします。
ただし,土曜日,日曜日及び国民の祝日（振替休日を含む。）は受付を行いません。

② 郵送の場合は3月23日（火）17時15分必着とします。

（注）入学手続期間後は一切受理しませんので,郵送による場合は郵送期間を十分に考慮してください。

⑵ 入学料等学生納付金

① 入学料　　282,000円（予定額）

② 授業料・前期分　　267,900円（　〃　）

・年　額　　535,800円（　〃　）

ア 入学料・授業料については，予定額をお知らせしています。改定があった場合には，随時お知らせします。

イ 在学中に授業料の改定が行われた場合は，改定時から新授業料が適用されます。

③ 諸経費

学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約付）料（2年間）1,750円

学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険料（2年間）680円

鹿屋体育大学厚生会入会費 2,000 円（本学出身者は不要）

13 第2次募集

入学定員に欠員が生じた場合は，下記の日程により第2次募集を行う場合があります。

第2次募集実施の有無については，令和8年12月1日（火）以降に本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で情報提供を行います。

インターネット出願サイト登録期間	令和9年2月5日（金）～2月17日（水）15時
出願書類提出期間	令和9年2月12日（金）～2月17日（水）
選　抜　日　程	令和9年3月8日（月）
合 格 者 発 表 日	令和9年3月12日（金）
入 学 手 続 期 間	令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

14 指導教員及び副指導教員

本研究科体育学専攻（修士課程）では，入学後に指導教員（1人）と副指導教員（2人以内）の指導の下で研究を行うこととなります。出願に際して，「研究テーマ」及び「研究計画」に基づき，指導教員として研究指導を受けることを希望する教員（研究指導教員となり得る教員）を，22～24頁の「3 体育学研究科体育学専攻（修士課程）担当教員一覧」に記載されている①研究指導担当教員及び26頁の【連携大学院】①研究指導担当教員の中から選ぶ必要があります。

なお，出願の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談を行ってください。教員の連絡先については，教務課入試係へ照会してください。

また，副指導教員については，入学後に指導教員の指導の下に研究科担当教員の中から選ぶことになります。

15 障害のある者等の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）のある者等で，受験上及び修学上特別な配慮を必要とするものは，出願に先立ち，令和8年8月18日（火）までに，あらかじめ本学に電話で相談してください。

16 個人の入試情報の開示請求方法

⑴ 開示内容

本人に開示する入試情報は，試験成績です。

⑵ 開示請求登録期間

入試成績開示請求登録は，インターネット出願サイトにて出願登録と同時に行う必要があります。出願登録時に「入試成績開示請求」の欄を「希望する」と選択してください。出願登録期間以外に開示請求登録を行うことはできませんので，注意してください。

⑶ 開示期間

令和9年4月16日～5月15日

⑷ 開示請求者

志願者本人に限ります。（代理人による請求は認めません。）

⑸ 成績開示手数料

1選抜ごとに600円を徴収します。入学検定料の支払い時に合わせてお支払いください。

⑹ 開示の方法

入試成績開示はオンライン上で実施します。

開示期間中は Web 出願システムにログインの上，個人成績を確認できます。詳細については，本学ホームページの「メニュー」→「入試情報」→「入試情報（共通事項）」→「個人成績の開示請求」で確認してください。

⑺ 開示手数料の返還

下記の場合以外は，既納の開示手数料はいかなる理由があっても返還しません。

ア 出願書類等を提出したが，受理されなかった場合

該当者に連絡しますので，所定の期日までに手続を行ってください。

イ 開示請求手数料を振り込み後，本学に出願しなかった場合

上記イについては，本人の申し出により納入された開示手数料は返還することができますので，必ず令和8年10月20日（火）までに教務課入試係（電話0994-46-4869）へ連絡してください。

⑻ その他の注意点

① 上記開示期間外における成績開示は行いません。
② 返還請求期限を超過した場合，開示手数料の返還には一切応じかねます。
③ 郵送，電話，メール及び教務課入試係の窓口での開示請求については受け付けません。

17 その他

⑴ 入学者選抜に関し，不正な行為又は虚偽の事実があった場合は，合格を取り消すことがあります。
⑵ 出願書類（外国語に関する公式認定証等の書類を除く。）は返却しません。
⑶ 受験についての詳細は，出願書類を提出した者に提供する「受験者心得」を参照してください。
⑷ 試験開始時刻（口述試験は集合時刻）に30分を超えて遅刻した者は，その科目等の受験は認めません。
⑸ 個人情報の保護に関する法律に基づき，個人情報（出願書類への記載内容及び試験成績）については，入学者選抜に係る業務（追跡調査を含む。）及び修学指導に使用します。また，入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあっては，選考資料として使用します。
⑹ 学生募集要項に関し，不明な点や質問がある場合は，下記の問い合わせ先に照会してください。
なお，電話による問い合わせは，原則として志願者本人が行ってください。

◆問い合わせ先　〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課入試係
T E L 0994－46－4869
F A X 0994－46－2533
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

◆入試情報の提供
本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で，入試情報等を提供しています。
なお，ホームページ上で，「合格者受験番号一覧表」を掲載しますが，必ず合否照会専用サイトで確認してください。

18 福利厚生等

◆福利厚生

⑴ 学生宿舎

学生宿舎への入居を希望する者は，本学ホームページ（学生宿舎の入居者（新入生）募集についてのページ/令和9年1月上旬公開予定）へアクセスし，入居申請に必要な書類をご確認の上，下記の入居申請受付期間内に申請書類を提出してください。

○入居申請受付期間
令和9年1月25日（月）～2月17日（水）

○申請書類等の提出方法および窓口

①提出方法：持参又は郵送
※郵送の場合は，封筒の表に「学生宿舎入居申請」と朱書きしてください。
※入試の出願書類，入学手続き書類とは封筒を分けて提出してください。
②書類送付先及び受付窓口：
〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地　鹿屋体育大学　学生課生活支援係
窓口時間：8時30分～17時15分　電話：0994－46－4889
メール：gaku-s3@nifs-k.ac.jp

○選考結果通知
令和9年3月9日（火）10時
本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上で，入居許可となった者の受験番号と入居する棟の部屋番号を公表します。
その後，令和9年3月10日（水）に，提出された通知用封筒にて許可者には許可通知書（入居手続き関係書類を同封），不許可者には不許可通知書を発送します。

○入居開始日
令和9年3月29日（月）～令和9年3月31日（水）
※これより前に入居（引越し）することはできませんので，あらかじめご了承ください。

⑵ 職員宿舎
本学大学院生については，本学の職員宿舎への入居が可能となっております。職員宿舎への入居を希望される場合は下記の問い合わせ先に連絡してください。

◆問い合わせ先　　鹿屋体育大学　施設課計画係
T　E　L 0994－46－4852
E-mail sisetu@nifs-k.ac.jp

⑶ アパート等
アパートは地域，部屋の設備等により異なりますが，標準的な家賃は次に挙げるとおりです。

種 類	部屋の広さ	家賃（月額）
アパート（バス・トイレ付）	6畳～8畳	25,000 円～ 40,000 円程度

⑷ その他
大学会館（白水キャンパス）には，食堂，ギャラリー，理容室，売店及びATMが置かれています。

◆入学料免除・入学料徴収猶予及び授業料免除制度

⑴ 入学料免除及び入学料徴収猶予
次に該当する者は，願い出により入学料の徴収免除あるいは徴収が猶予されることがあります。
なお，申請手続等については，令和9年1月中旬頃に公開する入学ガイドブックをご確認ください。
① 本学大学院に入学する者であって経済的理由により納付が著しく困難であり，かつ，学業優秀と認められる者
② 入学前1年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けたことにより，入学料の納付が著しく困難であると認められる者

⑵ 授業料免除
次に該当する者は，願い出により授業料の免除が認められることがあります。
なお，申請手続等については，令和9年1月中旬頃に公開する入学ガイドブックをご確認ください。
① 経済的理由により納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる者
② 入学前1年以内において，学資負担者が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けた者
また，別途，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

◆災害補償制度

学生が教育研究活動中において受けたケガ等の災害事故に対して，補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険」（2年間）や，他人に怪我を負わせたなどの賠償責任事故に対して補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険」（2年間）が設けられており，全員に加入していただいています。（保険料については，14頁の「12 入学手続・入学料等」⑵ ③ 諸経費を参照してください。）

そのほか，「国立大学法人学生総合補償プラン」「学研災付帯学生生活総合保険」（任意加入）があります。

◆奨学金制度

⑴ 日本学生支援機構奨学金

学業，人物ともに優秀で，学費の負担が困難であると認められる者に対して，日本学生支援機構が奨学金を貸与しています。

大学院生（修士課程）の貸与額は，第一種が月額5万円又は8万8千円，第二種が月額5万円・8万円・10万円・13万円・15万円からの選択型となっています。

なお，奨学生採用については，日本学生支援機構から募集があった際に，掲示にて通知します。

⑵ その他の奨学金

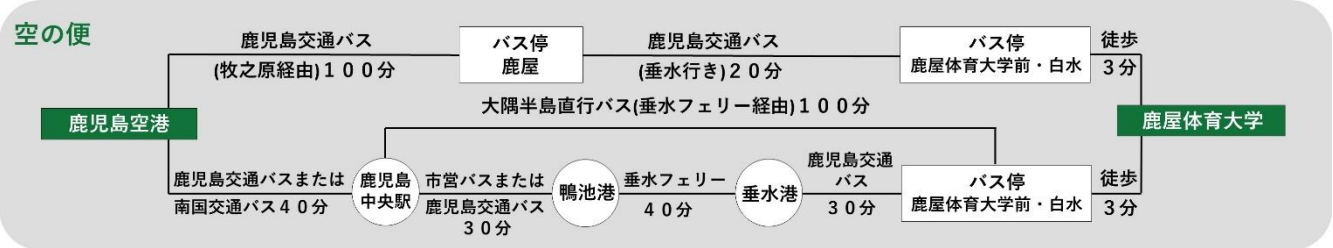
地方公共団体，民間の育英奨学事業団体等の奨学金も扱っています。

◆本学が求める外国人留学生の日本語能力について

本学の授業は原則日本語で行います。従いまして，本学が求める日本語能力は，「日本語教育の参照枠」（令和3年10月12日文化審議会国語分科会）において，高度に自立して日本語を理解し使用することができる水準とされているB2以上を目安とします。

◆本学までの主な交通経路

1 空の便

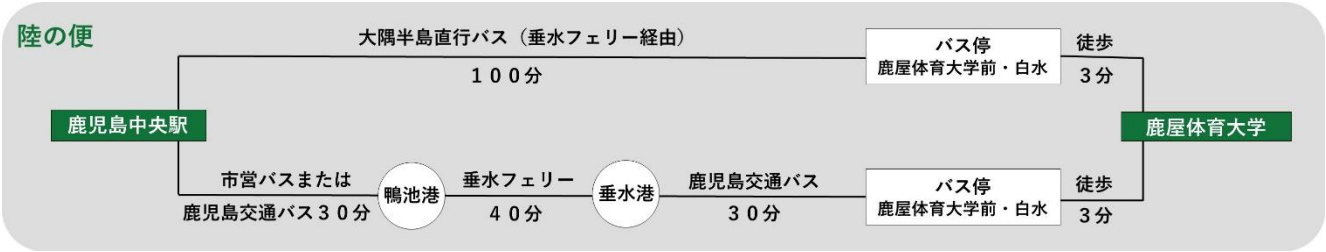


鹿児島空港からの経路

① 鹿児島空港から鹿屋市街地まで空港連絡バス(「鹿屋(かのや)・東笠之原(ひがしかさのはら)」行きの1系統のみ)が運行していますので，乗車し，「鹿屋」で下車してください。 【所要時間 約100分】
「鹿屋」からは「垂水(たるみず)」又は「中央病院」行きのバスに乗り「鹿屋体育大学前・白水(しろみず)」で下車してください。 【所要時間 約 20分】

② 鹿児島空港から鹿児島市内行きの空港連絡バスに乗車し，「鹿児島中央駅」で下車してください。 【所要時間 約 40分】
鹿児島中央駅からの経路については下記「2 陸の便」をご確認ください。 【所要時間 約100分】

2 陸の便



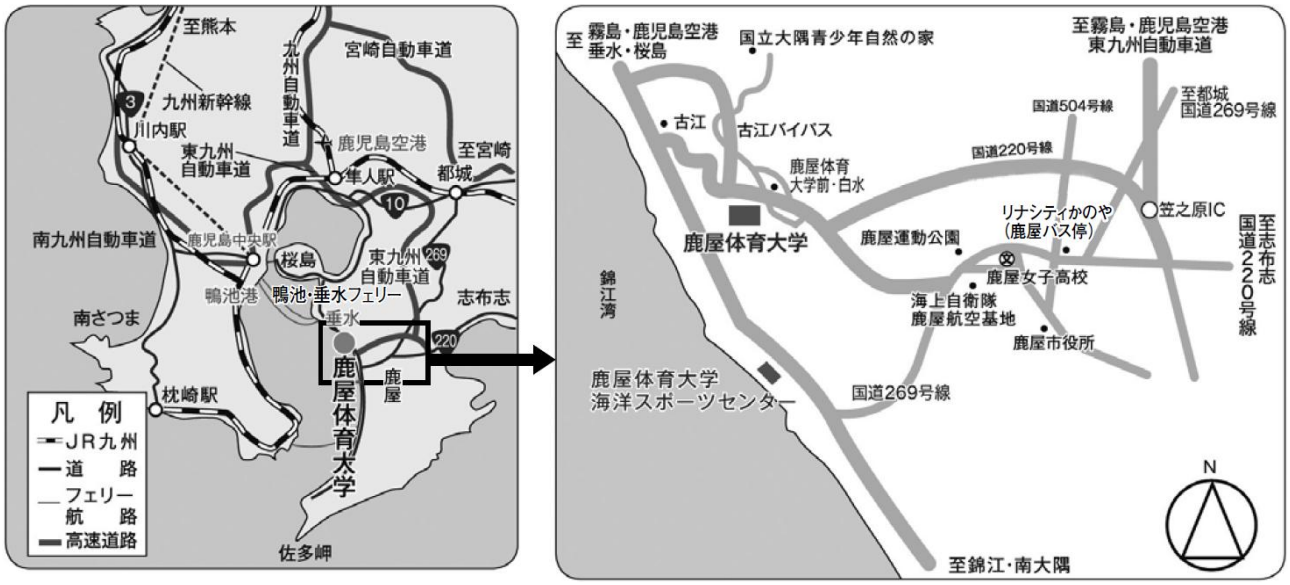
JR鹿児島中央駅からの経路

① JR鹿児島中央駅前から鹿児島交通のJR鹿児島中央駅～鹿屋間直行バスに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。 【所要時間 約100分】

② JR鹿児島中央駅前から鹿児島市営バス又は鹿児島交通バスの「鴨池港(かもいけこう)」行きに乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。 【所要時間 約 30分】
タクシーを利用した場合，JR鹿児島中央駅から鴨池港までの所要時間は約20分です。
下車したところが鴨池・垂水フェリー発着所となっていますので，そこから「垂水港」行きフェリーに乗船してください。 【所要時間 約 40分】
垂水港からは鹿児島交通バスが接続していますので，「志布志(しぶし)」又は「東笠之原」行きに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。 【所要時間 約 30分】

(注)交通経路によっては，便数が限られていますので，バス等の運行状況(時刻表等)を事前に確認してください。

◆鹿屋体育大学位置図


至熊本
九州自動車道
宮崎自動車道
九州新幹線
川内駅
東九州自動車道
鹿児島空港
至宮崎
隼人駅
都城
南九州自動車道
鹿児島中央駅
桜島
東九州自動車道
鴨池港
鴨池・垂水フェリー
志布志
南さつま
垂水
鹿屋体育大学
鹿屋
枕崎駅
凡例
JR九州
道路
フェリー航路
高速道路
佐多岬
至霧島・鹿児島空港
垂水・桜島
国立大隅青少年自然の家
至霧島・鹿児島空港
東九州自動車道
古江
古江バイパス
国道504号線
至都城
国道269号線
鹿屋体育
大学前・白水
国道220号線
リナシティかのや
(鹿屋バス停)
笠之原IC
鹿屋体育大学
鹿屋運動公園
至志布志
国道220号線
鹿屋女子高校
錦江湾
海上自衛隊
鹿屋航空基地
鹿屋市役所
鹿屋体育大学
海洋スポーツセンター
国道269号線
N
至錦江・南大隅

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻
（修士課程）入学案内

1 体育学研究科体育学専攻(修士課程)の概要

(1) 体育学研究科体育学専攻(修士課程)の目的

本研究科体育学専攻(修士課程)は,学部での教育研究の成果を基盤として,スポーツ,武道,体育及び健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的とします。

さらに,社会人の再教育,海外の留学生の受入れによる教育研究の国際交流を図り,これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざします。

(2) 専攻名及び定員

専 攻	入学定員	収容定員
体 育 学	15 人	30 人

(3) 学期及び授業期間

学年を前期・後期に区分し,各授業科目は学期ごとに完結するよう開講されています。

・前期　4月1日から9月30日まで

・後期　10月1日から3月31日まで

(4) 教育課程

各授業科目を共通科目,基礎科目,応用科目及び課題研究科目に分けて編成するものとします。

(5) 学位論文の作成及び審査

指導教員の指導を受けて作成し,研究科委員会が学位論文の審査を行います。

なお,特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

(6) 課程修了及び学位の授与

課程を修了するための要件は,標準修業年限以上在学し,所定の単位を30単位以上修得し,必要な研究指導を受け,学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することが条件です。

なお,課程の修了及び学位授与の可否は,学位論文審査委員会の報告に基づき研究科委員会が審議決定し,学長が認定することとなっています。

(7) 学位

本研究科体育学専攻(修士課程)を修了した者には,「修士(体育学)」の学位を授与します。

(8) 教育職員免許状

教育職員免許法に定める中学校及び高等学校教諭の一種免許状(保健体育)の所要資格を有する者が教育職員免許状取得に必要な単位(24単位以上)を修得し,かつ本研究科体育学専攻(修士課程)を修了したときには,申請に基づき中学校及び高等学校教諭の専修免許状(保健体育)の資格が得られます。

2 熊本大学・宮崎大学との連携大学院について

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムでは,我が国で唯一の国立4年制体育大学である鹿屋体育大学大学院の体育学研究科(修士課程)を中心として,熊本大学及び宮崎大学と連携・協力して本学の修士課程の教育・研究指導を行うことで,複合領域である体育学・スポーツ科学についての専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者を養成し,鹿屋体育大学大学院の修士(体育学)の学位取得を目指します。

詳細につきましては,本学ホームページ(https://www.nifs-k.ac.jp/admission/graduate-school/master/cooperation-program/)をご参照ください。

3 体育学研究科体育学専攻(修士課程)担当教員一覧(令和8年8月現在)

① 研究指導担当教員(指導教員又は副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	小澤雄二 (教授)	・身体教育特講演習Ⅰ ・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習(柔道)	1)安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 2)柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 3)柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の3つの方向から主に研究を行っている。
	栫ちか子 (教授)	・コープ特講演習・実習 ・身体教育特講Ⅰ ・スポーツ教育学特講 ・スポーツ教育学特講演習	保健体育科教育学,舞踊教育学を専門分野とし,学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに,授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発,授業改善に向けての授業実践等について,量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	北村尚浩 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ社会科学特講 ・生涯スポーツ学特講演習 ・スポーツ社会学特講演習	スポーツを中心としたレジャー・レクリエーションの社会科学的研究を主要研究領域とし,生涯にわたるスポーツ・ライフスタイル形成の視点から,特に学校での教科体育や運動部活動をはじめ,スポーツ少年団や地域スポーツクラブなどにおける青少年スポーツのあり方や,レジャー・レクリエーションの社会的意義について検討している。
	金高宏文 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・コープ特講演習・実習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は,各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術,その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で,スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取組んでいる。
	髙井洋平 (教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習	発育期の子ども,高齢者およびスポーツ選手を対象に,身体組成,筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を,運動生理学的およびバイオメカニクス的手法を用いて行っている。
	髙橋仁大 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習(テニス) ・スポーツパフォーマンス学特講演習	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびにPerformanceAnalysisを行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法,またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室的研究で終わることなく,スポーツの実践場面に貢献できるような,フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	竹中健太郎 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・武道指導論特講演習(剣道) ・スポーツパフォーマンス学特講演習	我国発祥の伝統運動文化である武道(剣道)おいて,その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求,構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因,あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し,剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から,後世への伝承の方法論について検討している。
	田巻弘之 (教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ生理学特講 ・身体科学論特講演習 (生体ダイナミクス)	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や,運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか,どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内真樹 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習	中高齢者を対象として健康づくり,介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し,実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	永原隆 (教授)	・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習 (陸上競技(トラック))	スポーツ科学を研究領域とし,競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし,子供から高齢者,アスリートを対象として,スプリント走の機序,評価法,効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また,研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	中村夏実 (教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講演習(海洋スポーツ)	海洋スポーツ種目(特にボート,カヌー)における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら,国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で,海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	中本浩揮 (教授)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	スポーツの熟達化をテーマとし,優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について,心理物理学,生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
	沼尾成晴 (教授)	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し,呼気や血液指標(生化学指標,アディポカイン)などを用いて,急性運動や慢性運動のエネルギー代謝(糖代謝,脂質代謝)に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また,中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法,またその効果についても検討している。
	廣津匡隆 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について,特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に,その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し,メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより,障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	藤井康成 (教授) [令和9年3月末 退職予定]	・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について,特に肩・肘の上肢,膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に,その病態や治療法,予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して,体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤田英二 (教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・ヘルスサイエンス特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・運動処方論特講演習	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング,および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは,特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや,そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは,健常高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀内雅弘 (教授)	・スポーツ生理学特講 ・スポーツ生理学特講演習	専門領域は運動生理学(呼吸・中心循環,および末梢循環応答),および環境生理学である。具体的には,運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために,環境要因(低酸素・暑熱等)を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに,これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前田明 (教授・副学長)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャーシステム,ハイスピードカメラ,フォースプレート等を用いてバイオメカニクス的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクス的見地から考察する。
	三浦健 (教授)	・コーチング学特講演習 (バスケットボール)	球技スポーツにおける技術面,戦術面,試合の運営等に焦点を当て,実践活動に直接寄与する知見を,数値データや画像データを提示することにより,「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。
	森司朗 (教授) [令和9年3月末 退職予定]	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	1)幼少年期の心身両面からの運動発達 2)運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3)コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4)脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	吉田剛一郎 (教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ生化学特講 ・スポーツ生化学特講演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし,その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	與谷謙吾 (教授)	・スポーツ生理学特講 ・身体科学論特講演習(身体機能論)	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて,時間的側面(反応時間)から中枢(神経系)や末梢(筋系)の時間要素に区分して評価し,各系でのトレーナビリティー等について研究を行っている。

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	和田智仁 (教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ情報学特講 ・スポーツ情報学特講演習	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし，慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化，スポーツ現場におけるタブレット活用，映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	赤澤暢彦 (准教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習	一般中高齢者からアスリートまでを対象にして,トレーニングやコンディショニングに関する研究を行っている。主に,動脈硬化や認知症の予防・アスリートブレインなどを中心に,生理生化学アプローチにより,トレーニングの効果やそのメカニズムを明らかにして,健康維持増進やパフォーマンス向上をねらいとした研究に取り組んでいる。
	幾留沙智 (准教授)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	パフォーマンス向上に関連する内容として,運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明,練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として,メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	石原豊一 (准教授)	・スポーツ科学英語特講	サッカー選手や野球選手の巨額の契約での移籍が世間を賑わせています。アスリートはなぜ国際移動をするのか,私の研究テーマの興味はここにあります。ただし,とくに焦点を当てているのは,メジャーリガーの大谷選手のような「ビッグディール」での移動ではない「普通の」アスリートの移動です。日本からの移動とは逆に,近年は途上国から日本への移動も様々なかたちで起こっています。そのような移動を研究していく中,国際開発とスポーツというテーマにも遭遇しました。
	小崎亮輔 (准教授)	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習(柔道)	柔道に関連した研究を実施している。これまでに実施してきた研究のテーマは以下のとおりである。 1.障害児を対象とした発達支援活動である「柔道療育」の効果の検証 2.柔道における段階的かつ細分化された指導方法の検討及び開発 3.柔道高段者及び中高齢実践者の健康状態に関する研究 4.柔道競技における競技映像分析ツールを用いたパフォーマンス評価
	小森大輔 (准教授)	・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習 (陸上競技(フィールド))	陸上競技における効果的な指導方法や跳躍種目で要求される体力要素について研究を進めている。 その中でも,リバウンドジャンプや立五段跳等のパフォーマンスと関係性のある能力を向上させるためのトレーニング方法について探求している。
	坂中美郷 (准教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・コーチング学特講演習(バレーボール)	バレーボールにおけるパフォーマンスの向上を目的とした練習方法,コーチング方法,チームビルディングについて研究を行っている。また,選手個々人のパフォーマンスと,メンタルコンディションや身体コンディションとの関わりについて研究を進めている。
	隅野美砂輝 (准教授)	・スポーツ経営学特講演習	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し,その行動の解明に取り組んでいる。
	藤井雅文 (准教授)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習(野球)	野球における以下の3つの項目についての評価方法,ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について,実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 1)走攻守のパフォーマンスについて 2)攻撃戦術および守備戦術について 3)選手が向上するためのチーム(環境)作りについて
	村上俊祐 (准教授)	・コーチング学特講演習(テニス)	テニスにおけるサービスやグラウンドストロークの技術評価に取り組んでおり,そうした評価やニーズ分析に基づいたトレーニング実践による競技力向上の過程に関する研究を進めている。また,テニスの指導者講習を実践するとともに,より効果的な指導者養成プログラムについても検討している。
	山下龍一郎 (准教授)	・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習(体操競技)	スポーツ運動学の理論に基づき，実践に定位した研究を行なっている。主に体操競技について，技術や動きのコツとカン，技の狂い，動きの習熟，修正を対象とした発生的分析，動きの生成と消滅の過程に関する静態的分析，動きの構造，競技規則等に関する構造分析を行なっている。一般的にいう意識的(顕在的)な内容だけでなく，無意識的(潜在的)な内容の解明を進める。
	宮崎輝光 (講師)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習	さまざまなヒトの運動について，パフォーマンスの向上や傷害予防に関わるバイオメカニクス的要因の解明をテーマとして研究を進めている。主に，走・跳・投といったスポーツ動作を対象に，動作分析やシミュレーションなどのバイオメカニクス的手法を用いて取り組んでいる。

② 授業担当教員(副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	濱田幸二 (教授)	・コーチング学特講演習(バレーボール)	バレーボールのゲーム分析,主として攻撃戦術のパターン化と守備戦術のシステム化のために,データ蓄積と解析を重ねている。この過程から戦術トレーニングの方法開発を進め,コーチング現場へのフィードバックと戦術構造から考えられるチームビルディングを検討している。
	前阪茂樹 (教授)	・武道指導論特講 ・武道論特講 ・武道指導論特講演習(剣道) ・武道論特講演習	武道(特に剣道)を単なる「競技」ではなく,「日本の伝統的運動文化」であるという視座にたち,武道について歴史性・文化性などを俯瞰し,指導論へと発展させていく。 特に, 1. 古伝書等に記述されている内容の吟味と現代的解釈。 2. 武道修錬の構造の理解と「師弟同行」の精神に基づく実践・検証。 などを検討・確認しながら,「修証一如」の修行論・指導論を展開する。
	栗山靖弘 (准教授)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・コープ特講演習・実習	教育社会学とスポーツ社会学の立場から,強豪校と呼ばれる高校の運動部活動における,スポーツ推薦入試を利用した大学進学について研究している。特に,高校生の進路形成と選抜に関する研究を背景として研究を行っている。
	吉塚一典 (准教授)	・コーチング学特講演習 (陸上競技(トラック))	陸上競技の中・長距離種目を中心に,パフォーマンス向上のための研究に取り組んでいる。特に中・長距離選手の持久力を向上させるためのトレーニング方法,および暑熱環境下における体温上昇を防ぐ対策について検討しており,競技パフォーマンスを発揮するための実践的な研究を行っている。
	日下知明 (講師)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ社会科学特講 ・スポーツ社会学特講演習	スポーツ政策に関する研究を専門とし,特にスポーツ政策における政府部門と民間部門の関係について研究している。具体的には,地方レベルのスポーツ政策における地方自治体と民間スポーツ組織の間に形成されている官民連携・協働関係やその統治の在り方について研究を行っている。
	古瀬裕次郎 (講師)	・ヘルスサイエンス特講 ・公衆衛生学特講演習	多くのヒトの集団を対象に,健康に及ぼす運動の効果や体力との関連を検証している。中高齢者を対象とすることが多く,疫学手法を用いる。公衆衛生学の中でも,高齢者を対象とした予防医学・運動疫学の分野を得意とする。現在の研究課題は,高齢者の体力低下を示す早期リスクファクターの解明である。
	笹子悠歩 (講師)	・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習(海洋スポーツ) ・スポーツパフォーマンス学特講演習	海洋スポーツに関する研究を中心に行っている。具体的には,自然体験活動としての海洋スポーツの安全な実施方法に関する研究や,トレーニング科学の視点から,ヨットやウィンドサーフィンをはじめとした,海洋スポーツの競技力向上のための実践研究に取り組んでいる。
	塩川勝行 (講師)	・コーチング学特講演習(サッカー)	サッカーの育成年代における技術,戦術的なトレーニング,コーチングの研究及びサッカーにおけるフィジカルコンディションの検討を行っている。 また,試合の映像編集・分析を基に,攻撃戦術,守備戦術を考察し,競技力向上に結びつく実践的なトレーニング方法・コーチング法を検討している。
	中谷太希 (講師)	・コーチング学特講演習(体操競技)	体操競技に関連した研究を行っている。主に,大学生体操選手を対象とした技のコーチングや採点傾向,技の成立判定に関する研究を行っている。また,自身のコーチング事例を例証とした指導者の実践知の獲得過程について研究を行っている。
	成田健造 (講師)	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・コーチング学特講演習(水泳)	水泳における力学,特に流体力学を専門とし,水泳中の抵抗力評価をメインテーマとしている。そのテーマの中で,抵抗力・推進力の大きい泳動作の特徴や,身体形状・組成との関係を近年は研究している。また,上記以外にも,水泳のトレーニング学や指導方法などにも取り組んでいるため,水泳全般が私の研究領域といえる。
	前村かおり (講師)	・コーチング学特講演習 (バスケットボール)	バスケットボールを対象に,競技力向上および競技現場で生じる課題を科学的に解決するための実践研究を行っている。ゲームパフォーマンス分析や実験研究を通して,リバウンドやボックスアウト,スティールなどの攻防技術の解明と,指導法やトレーニング方法の開発を進めている。また,自らのコーチング実践を基に,チームビルディングや組織マネジメントに関する研究にも取り組んでいる。

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	棟田雅也 (講師)	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ経営学特講演習	スポーツビジネスにおけるマネジメントおよびマーケティングに関する領域を研究範囲としている。具体的には,スポーツによる地域活性化を主眼として,経営学,経済学,そして社会心理学などの理論を応用した検証を進めている。また,地域社会の課題を質的,量的なアプローチから探索し,スポーツの価値が果たす役割について科学的に検討している。
	村川大輔 (講師)	・コーチング学特講演習(サッカー)	サッカー選手の優れたパフォーマンスを支える要因について,意思決定や情報収集方略などの中枢機能の観点から解明を進めている。現在は,環境情報の情動処理仮説に基づき,潜在的な知覚処理の背景メカニズムの解明に取り組んでいる。また,これらの知見を活用した効果的なトレーニング方法やコーチング方法に関する検討を行っている。このため,研究領域はサッカー全般にわたるといえる。
	山口大貴 (講師)	・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習(自転車) ・スポーツパフォーマンス学特講演習	自転車競技を中心に,技能改善および競技力向上に関する実践研究に取組んでいる。具体的には,自転者競技者および指導者が有している運動技能や実践知を,簡易的な機材や映像等を用いて客観的に可視化し,その指標がどのように活用できるか検討している。その他,スポーツ用自転車を用いた安全な走行技能を修得するための指導法についても探求している。

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名(職名)	担当授業科目
授業のみを担当する教員	国重徹 (教授)	・スポーツ科学英語特講
	David Elmes (准教授)	・スポーツ科学英語特講
	樋口公嗣 (准教授)	・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習
	萬久博敏 (准教授)	・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講演習(水泳)
	石澤里枝 (講師)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ栄養学特講 ・スポーツ栄養学特講演習
	榮樂洋光 (講師)	・コーチング学特講演習(海洋スポーツ)
	坂口俊哉 (講師)	・スポーツ社会科学特講 ・野外教育論特講演習
	中村勇 (講師)	・スポーツ人文学特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習

【連携大学院】

① 研究指導担当教員(指導教員又は副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	井福裕俊 (客員教授)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・身体教育特講ⅡA ・身体教育特講演習ⅡA	生理学・運動生理学の観点から,1)運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明,2)運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴,および3)運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。
	坂本将基 (客員教授)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講ⅡA ・身体教育特講演習ⅡA	これまでは,ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について,神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は,主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し,この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。
	塩瀬圭佑 (客員准教授)	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・身体教育特講ⅡB ・身体教育特講演習ⅡB	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について,特に下記のテーマで研究を行っている。1)競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究,2)生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究,3)子どもの生活習慣と健康についての研究

4 開設授業科目及び授業担当教員一覧（修士課程）（令和8年8月現在）

科目	科目群	領域	授業科目	担当教員	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	備考
共通	共通科目	共通	スポーツ科学リテラシー特講	各領域から2名程度	2			
			スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から2名程度	2			
			スポーツ科学セミナー	研究科教務委員会委員長	1			
			学会発表	研究指導担当教員		1		
			キャリアデザイン演習	研究科教務委員会		1		
			コープ特講演習・実習	研究科教務委員会・桝・金高・栗山		2～4		
			スポーツ科学英語特講	エルメス・石原・国重			2	
			身体教育特講Ⅰ	連携大学院担当教員等			2	
			身体教育特講演習Ⅰ	連携大学院担当教員等			2	
専門	基礎科目	スポーツ・武道実践科学	コーチング学特講	金高・小森・永原・山下			2	
			武道指導論特講	前阪・小澤・小崎			2	
			武道論特講	前阪			2	
			スポーツパフォーマンス学特講	髙橋・金高・竹中・藤井(雅)・山口・前田・笹子			2	
		スポーツ生命科学	ヘルスサイエンス特講	中垣内・藤田・沼尾・古瀬			2	
			スポーツ医科学特講	藤井(康)・樋口・廣津			2	
			スポーツ生理学特講	田巻・堀内・與谷			2	
			トレーニング科学特講	高井・赤澤			2	
			スポーツバイオメカニクス特講	宮崎			2	
			スポーツ生化学特講	吉田			2	
			スポーツ栄養学特講	石澤			2	
			身体教育特講ⅡA	[井福]・[坂本]			2	
			身体教育特講ⅡB	[塩瀬]			2	
		スポーツ人文・応用社会科学	スポーツ人文学特講	中村(勇)・【山田】・【森(克)】			2	
			スポーツ社会科学特講	北村・坂口・日下・隅野・棟田・【関】			2	
			スポーツ心理学特講	森(司)・中本・幾留			2	
			スポーツ教育学特講	桝			2	
			スポーツ情報学特講	和田			2	
	応用科目	スポーツ・武道実践科学	コーチング学特講演習(陸上競技(トラック))	永原・吉塚			2	
			コーチング学特講演習(陸上競技(フィールド))	小森			2	
			コーチング学特講演習(水泳)	萬久・成田			2	
			コーチング学特講演習(体操競技)	山下・中谷			2	
			コーチング学特講演習(サッカー)	塩川・村川			2	
			コーチング学特講演習(バスケットボール)	三浦・前村			2	
			コーチング学特講演習(テニス)	髙橋・村上			2	
			コーチング学特講演習(バレーボール)	坂中			2	
			コーチング学特講演習(海洋スポーツ)	中村(夏)・榮樂・笹子			2	
			コーチング学特講演習(自転車)	山口			2	
			コーチング学特講演習(野球)	藤井(雅)			2	
			武道指導論特講演習(剣道)	前阪・竹中			2	
			武道指導論特講演習(柔道)	小澤・小崎			2	
			武道論特講演習	前阪			2	
			スポーツパフォーマンス学特講演習	髙橋・金高・竹中・藤井(雅)・山口・前田・笹子			2	
		スポーツ生命科学	ヘルスサイエンス特講演習	中垣内・沼尾			2	
			スポーツ医科学特講演習	藤井(康)・樋口・廣津			2	
			公衆衛生学特講演習	古瀬			2	
			運動処方論特講演習	藤田			2	
			トレーニング科学特講演習	高井・赤澤			2	
			スポーツ生理学特講演習	堀内			2	
			身体科学論特講演習(生体ダイナミクス)	田巻			2	
			身体科学論特講演習(身体機能論)	與谷			2	
			スポーツバイオメカニクス特講演習	宮崎			2	
			スポーツ生化学特講演習	吉田			2	
			スポーツ栄養学特講演習	石澤			2	
			身体教育特講演習ⅡA	[井福]・[坂本]			2	
			身体教育特講演習ⅡB	[塩瀬]			2	
		スポーツ人文・応用社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習	中村(勇)・【山田】・【森(克)】			2	
			スポーツ法・倫理特講演習	【森(克)】			2	
			生涯スポーツ学特講演習	北村・【大勝】			2	
			野外教育論特講演習	坂口			2	
			スポーツ社会学特講演習	北村・日下			2	
			スポーツ経営学特講演習	隅野・棟田・【関】			2	
			スポーツ心理学特講演習	森(司)・中本・幾留			2	
			スポーツ教育学特講演習	桝			2	
			スポーツ情報学特講演習	和田			2	
課題研究	課題研究科目	課題研究	課題研究Ⅰ	研究指導担当教員	5			
			課題研究Ⅱ	研究指導担当教員	5			

【注意事項】
1. 非常勤講師については，担当教員名を【】で表記
2. 連携大学院における連携先教員については，担当教員名を[ ]で表記。

5 大学院設置基準第 14 条に定める「教育方法の特例」

◆目的

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を1・2年次にわたって実施し，社会人学生に対して，教育上特別の必要があると認められる場合,夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うことにより，大学院での修学を容易にします。

特例の適用対象となる学生は，入学時に社会人（有職者）である者又は在学中に社会人（有職者）となった者です。

ここでいう，社会人の定義は，「職業上，恒常的に昼間大学で授業を受けられない者」です。

◆教育方法

教育方法の特例の適用を希望する者の教育方法等は，次のとおりです。

⑴ 標準修業年限

標準修業年限は2年とします。

⑵ 履修方法等

① 授業科目を履修できる期間は，原則として2年間とし，その間に課程修了に必要な30単位を修得することができます。

② 特例による授業科目の履修計画は，指導教員の指導の下で作成するものとし，原則として入学年度の当初に2年間の履修を見通して計画し，履修登録を行います。

⑶ 授業の実施方法

授業は原則遠隔授業にて開講することとし，2年間で修了に必要な単位が修得できます。
なお，授業担当教員と相談の上，対面授業を実施する場合もあります。

⑷ 授業科目

27頁に記載されている授業科目は,授業担当教員と相談の上,実施時間・方法を調整します。
なお，通常の時間帯に開講される授業科目も履修することができます。（科目によっては,対面での実験が必須で,遠隔での履修が難しい場合もあるため,履修登録期間中に調整します。）

⑸ 授業時間

夜間に授業を行う場合の時間は，原則として次のとおりです。
第6時限：18：30～20：00　第7時限：20：10～21：40

⑹ 教育方法の特例の適用を希望する場合

教育方法の特例の適用を希望する場合，事前に教務課教育企画係（TEL0994-46-4862）にご連絡ください。

6 長期履修学生制度

本研究科体育学専攻（修士課程）には，長期履修学生制度があります。これは，職業を有している等の事情により，標準修業年限（2年）で修了することが困難な大学院生が，標準修業年限を超えて一定の期間（3年又は4年）にわたり，計画的に教育課程を履修し課程を修了することをあらかじめ申請し，審査の上，許可されるものです。

なお，長期履修学生の授業料年額は，学生が標準修業年限（2年）在学した場合の授業料総額を，長期履修学生として許可された修業年数（3年又は4年）で分割した額となります。

ただし，許可された修業年数を超えて留年した場合は，留年分の授業料は一般学生と同額となります。
また，一般学生と同様に在学中に授業料が改定される場合があります。
希望者は，入学手続の際に申請してください。

申請手続時期：

- 入学手続時又は，入学後1年以内とします。

ただし，やむを得ない事情により入学後1年を超えて長期履修が必要となった場合は，研究科教務委員会で審議の上，学長が認めた場合は許可されることがあります。

なお，入学後（在学中）の申請は，収容定員を超えている場合には，許可されないことがあります。